

## 基本目標 3 誰もが役割を持つことができる地域の実現

### 取り組み 7 隣近所や地域の力による福祉活動のきっかけづくり

#### ◆ 現状と課題

一人ひとりが互いを理解し、助け合うための意識の醸成が求められています。

○核家族化の進行などにより、地域のつながりが希薄化しており、地域における相互扶助機能の低下が課題となっています。近隣に住む人たちが互助のために形成している区会・町内会・自治会においても加入率の低下が懸念されています。

○市民アンケートでは、「地域福祉」という言葉を知っている割合は、1割半ばとなっています。また、地域の課題に関心がある人は約7割、地域の課題を解決するにあたって助け合い、支え合いが「必要だと思う」人は約9割で一定の地域への関心があることがうかがえます。

○一方で、近所付き合いについて、「会えばあいさつする程度の付き合いである」が5割半ばとなり、それ以上親しい付き合いがある割合は3割強となっています。

○また、平成28年4月から障害者差別解消法が施行されたほか、埼玉県では、「埼玉県障害のある人もない人もすべての人が安心して暮らしていける共生社会づくり条例」と「埼玉県手話言語条例」の2つの条例が制定、平成28年4月1日から施行されており、障害者への理解の促進が求められるほか、市民アンケートでは、障害者が生きがいをもって暮らすために必要なこととして、「地域で理解を深める」が5割弱で第2位となっています。

#### 策定過程の各会議で出された意見



○まずは、「あいさつ」が基本であり、積極的な声かけが必要である。

○「地域福祉」の意味までわかっている人は少ない。

○地域福祉活動については、地域差がみられ、それぞれの実情に応じた活動が必要である。

○地域福祉活動を率先して引っ張っていく人材が必要である。子どものころからの福祉教育や意識付けが必要である。

○子ども会育成会など子ども・若者の世代を巻き込むことが必要である。

#### ◆ 目指す姿

○身近な地域における付き合いが深まり、普段からの声かけや地域行事への参加が積極的に行われている地域を目指します。

○家庭、学校、職場、地域などのさまざまな機会を通じて、障害などの福祉に関する啓発や教育などが進み、お互いが尊重し合い、支え合える地域を目指します

○地域福祉を担う人材・リーダーが育成され、地域福祉に関する活動が活発に行われている地域を目指します。

## ◆ 指標

指標名	現状値 (H27)	目標値 (H32)
近所付き合いについて「会えばあいさつする程度の付き合いである」(アンケート調査)	5割半ば	↑(増加)

## ◆ 取り組み内容 ※市と社会福祉協議会の事業内容などは資料編を参照

### ◇ 市の取り組み

#### (1)一人ひとりの意識の醸成 (資-16⇔7-1~7-5)

- 地域のつながりの必要性について、広報・周知を推進します。
- 福祉に関するイベントの開催を通じて、地域住民の地域福祉についての意識醸成につなげます。
- 障害者差別解消法等に関する市政出前講座や、手話言語条例に関する検討会議などを開催し、障害に関する理解と周知・啓発を図ります。
- 障害者の差別を解消するための取り組みを効果的かつ円滑に行うため、既存の「上尾市・伊奈町地域自立支援協議会」に「障害者差別解消支援地域協議会」の機能を新たに追加します。

#### (2)地域組織への参加促進 (資-16⇔7-6~7-10)

- 地域にある組織、活動への参加を促進します。

### ◇ 社会福祉協議会の取り組み (資-16⇔s7-1~s7-5)

- 学校をはじめ、企業や地域住民に対し、当事者との交流や体験型の学習による福祉意識の醸成を行います。
- 自分の暮らす地域の身近な福祉課題を知り、自分たちにできることを話し合える場づくりを行います。

## Let's try !



### 市民は…

- 地域の中で顔を合わせる人とあいさつをする習慣を身に付けましょう。
- 趣味仲間など小さな集まりを契機に地域福祉活動に参加しましょう。
- 地域で開催される福祉に関する講座などに参加しましょう。

### 区会・町内会・自治会は…

- 大人も子どももあいさつできる地域を目指しましょう。
- 区長を中心に地域福祉について学ぶ機会を設けましょう。
- 近隣の人々に呼びかけを行い、身近な日常生活における課題や事例など話し合う場を持ちましょう。
- 隣近所での顔見知りの関係がつかれるよう、イベントなどを積極的に活用しましょう。
- 子ども会育成会等と連携し、若い世代が参加できる活動に取り組みましょう。

### 社会福祉法人は…

- 助け合い、支え合いのために必要な知識やノウハウなどを地域と共有しましょう。

## 取り組み8 地域福祉活動の担い手の育成

### ◆ 現状と課題

一人ひとりが地域の一員として、健康であることが重要です。

- 全国的に人口減少及び少子高齢化が進行していく中で、元気な高齢者が引き続き元気に生活することや、高齢者が地域の担い手として活躍することなど、高齢者の健康の維持の重要性が高まっています。
- 近年、社会環境や生活習慣の変化などにより、ストレスを抱える人や生活習慣病にかかる人が増加していることから、健康づくりに注目が集まっています。上尾市では、高齢者人口、要介護・要支援認定者数は増加傾向にあり、今後も増加が見込まれています。
- 市民アンケートでは、保健・福祉の情報で充実してほしいものについては、「健康づくりに関する情報」が4割弱で第2位となっており、年齢別では、18～29歳と60～69歳で「健康づくりに関する情報」が最も高くなっています。自由意見では、健康づくりや介護予防の講習会などの実施を求める意見が挙げられています。
- 事業所アンケートでは、地域の医療機関と相互理解を深める機会や誰でも気軽に健康づくりに参加できる機会を求める意見が挙げられています。
- 団体アンケートでは、地域福祉活動に取り組んでいくためには、参加者自身が健康であることが重要であるという意見が挙げられています。

より多くの市民が地域福祉活動に参加していくことが求められています。

- 地方分権という時代の流れの中で、福祉活動をはじめ、まちづくりへの市民参画は必要不可欠なものとなっています。退職後、地域で生活する時間が多くなる団塊の世代や高齢者だけでなく、子どもや若者、子育て世帯などすべての市民が地域活動に関わって行くことが重要となります。
- 地域活動などへの取り組み状況については、「取り組んだことはない」が約5割となっており、今後の地域活動への取り組み意向については、「機会があれば、取り組んでもよい」が5割弱で、『取り組みたくない・取り組まない』は50歳以上で3割から4割を超え、他の年代よりも高くなっており、若年層だけでなく、すべての年代に対して地域活動への参加を促進させていく必要があります。
- また、活動していない理由については、「勤務などの都合で機会がないから」「時間がないから」「参加方法がわからないから」が高くなっています。一方で、活動・参加の条件については、「活動時間や曜日が自由」「気軽に参加できる」「身近なところで活動できる」が上位となっており、活動に参加しやすい仕組みづくりが求められています。
- 団体アンケートでは、活動を行う上で困っていることについて、「メンバーの高齢化」「新しいメンバーが入らない」「リーダー（後継者）が育たない」が上位となっており、活動するうえでの人材の確保が課題となっています。また、市民が団体の活動に一回だけでも気軽に参加してもらうことについては、「活動の内容によっては、一回きりの参加があっても良い」が3割半ばとなっています。

## 策定過程の各会議で出された意見



- ボランティアなどに参加したいと思っている人はいるが、具体的な話になると引いてしまう人も多くいる。
- 親も子も含めた情報提供が必要である。
- 若い人や未経験者、ボランティアを始めて間もない人の育成や、継続的な活動支援が必要である。
- 地域でのボランティアの受け皿作りや団体や組織の横のつながりが必要である。
- 地域活動の推進にあたっては、教育経験者、福祉経験者などの OB、OG の活用をすることが必要である。
- 健康づくりは、間口を広げ、仕掛け、きっかけづくりが重要である。
- 生きがいつくりは、情報交換、取り組み紹介、発表の場が必要である。
- 生活の中で、「楽しいこと」を見つけることが必要である。

## ◆ 目指す姿

- 一人ではなく、地域でみんなと健康づくりに取り組み、誰もが健康に過ごすことができる地域を目指します。
- 地域のことや各種団体の活動内容などの情報が積極的に発信され、市民の地域活動やボランティア活動への関心が高まり、新たな参加者が加わりやすい地域を目指します。

## ◆ 指標

指標名	現状値 (H27)	目標値 (H32)
地域を支える担い手育成講座への参加人数	59 人	↑ (増加)
アッピー元気体操リーダー養成講座受講者数	44 人	↑ (増加)
認知症サポーター養成講座参加人数	853 人	1,150 人
健康に関する地域への出前講座開催数	48 回	↑ (増加)

## ◆ 取り組み内容 ※市と社会福祉協議会の事業内容などは資料編を参照

### ◇ 市の取り組み

#### (1) 健康・生きがいつくりの推進 (資-16・17⇨8-1~8-13)

- 健康相談や健康講座などを開催し、自分の健康は自分で守るという健康づくり意識の普及啓発に努めます。

アッピー元気体操の様子



- 市民が気軽に取り組みやすい健康づくり活動やイベントなどを実施します。
- 市民が心身ともに健やかに暮らすことができるよう、心の健康づくりに取り組みます。

## (2)人材の育成・活用 (資-17☞8-14~8-25)

- 地域の福祉活動や健康づくり活動に積極的に関わっていく人材を育成します。
- 教育経験者、福祉経験者などのOB、OG 地域活動へ参加を促進するための周知啓発を図ります。
- ボランティア活動に関する相談窓口の充実・強化を図るとともに、ボランティアセンターとの連携体制を充実します。

## ◇ 社会福祉協議会の取り組み (資-17☞s8-1~s8-4)

- ボランティア情報の提供により、市民のボランティア意識を高めます。
- これまで地域活動に参加していない人でも気軽に参加できるような機会を提供します。
- ボランティア活動を行う個人・団体を支援するとともにマッチング機能を強化します。
- 新たなボランティア養成のための講座を開催します。

## Let's try !



### 市民は…

- 地域活動やボランティア活動に関心を持ち、情報を収集しましょう。
- 自分が持っている技術や得意分野を生かした地域活動に参加しましょう。
- 日頃から体を動かす習慣を持ちましょう。
- 自分の健康に関心を持ち、定期的に各種健（検）診を受診し、健康管理に気を付けましょう。
- 健康講座や料理講習会や運動教室に参加し、健康づくりの意識を高めるとともに、日常生活で実践しましょう。

### 区会・町内会・自治会は…

- 地域の中で活動する団体と積極的に交流を図りましょう。
- 中高生等、子どもが参加しやすい地域活動を実施しましょう。
- 各種団体などが実施する講座への参加を呼びかけましょう。
- 各種健（検）診を受診するよう、地域で声かけをしましょう。

### 社会福祉法人は…

- 持っている資源やノウハウを生かして、地域での健康づくりに協力しましょう。

## 取り組み9 活動団体への支援

### ◆ 現状と課題

多様な世代の交流の促進が求められています。

- 近年、人々のライフスタイルや価値観が多様化しており、特に若い世代では、仕事が忙しいことなどを理由に、積極的に地域活動に関わる人が少なくなっています。
- 団体アンケート、民生委員・児童委員アンケートでは、活動から感じる地域課題について、「世代間交流」が5割超とともに第1位となっているほか、「隣近所との交流」が上位にきており、地域での交流が求められていることがうかがえます。

団体の活動の場づくりが求められています。

- 公共施設の建て替えや運営の在り方の見直しが進んでいる中で、団体アンケートでは、活動を行う上で困っていることについては、「活動拠点の確保が困難」が、また、活動から感じる地域課題については、「気軽にあつまれる場所が少ない」が1割以上となっているほか、市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なことについて、「地域の人が交流できる場の整備」が約5割となっており、交流の場や機会、活動の拠点が求められていることがうかがえます。
- 少子高齢化と併せ、地域で誰にも管理されない土地や空き家が増えていることが問題となっています。高齢者などが所有する土地や建物については、権利擁護などの支援や、地域での有効な活用方法などについて検討していくことが求められています。

#### 策定過程の各会議で出された意見



- サロンも高齢者だけではなく幅広い世代で実施することが重要である。
- 地域活動について魅力ある企画が、参加の促進につながる。
- 地域活動に若い人を巻き込み、その後の活動のバックアップができるとうい。
- 公園はつながりの場づくりに最適。

### ◆ 目指す姿

- 地域の中で、世代や所属を越えて、誰もが気軽に集まれる場と機会を提供され、地域交流の活発化が図られている地域を目指します。

### ◆ 指標

指標名	現状値 (H27)	目標値 (H32)
地域で取り組まれているサロン活動数	62 箇所	85 箇所

## ◆ 取り組み内容 ※市と社会福祉協議会の事業内容などは資料編を参照

### ◇ 市の取り組み

#### (1) 団体の活動・交流促進の支援 (資-17・18⇔9-1~9-12)

- 高齢者や障害者、子育て中の生きがいや仲間づくりにつながる集いの場づくりや機会づくりに努めます。
- 市民が気軽に集うことができる場の情報を提供します。

#### (2) 交流の場の提供 (資-18⇔9-13~9-15)

- 地域の活動の拠点となる場の提供に努めます。

### ◇ 社会福祉協議会の取り組み ▣具体的な取り組みの方法(P49) (資-18⇔s9-1~s9-5)

- 障害や高齢、子育て、介護などが理由で孤立しがちな当事者同士が集まり、交流を深めることで、お互いの生活のしづらさを共有できる場づくりを進めます。
- 当事者ならではの活動や情報発信を通じて、平時から災害に強い取り組みと、社会参加を高める機会づくりを進めます。
- サロンやボランティア団体の立ち上げや、活動及び運営に関する相談に応じます。

## Let's try !



#### 市民は…

- 地域の行事に積極的に参加しましょう。

#### 区会・町内会・自治会は…

- 祭りをはじめとした地域の行事の際には、住民同士で懇親を深めることができるような場づくりを心がけましょう。
- 地域の中で世代間交流の機会を設け、思いやりのある地域づくりを推進しましょう。
- 集会所等、自分たちで使う場所は自分たちで管理する意識を持ちましょう。

#### 各団体は…

- 高齢者と子どもとの交流など、ニーズを把握し皆で楽しめるメニューを企画しましょう。
- 他の分野の団体等と連携し、横のつながりを持ちましょう。

#### 社会福祉法人は…

- 施設の一部を開放するなど、地域の交流の場の提供に努めましょう。

## 当事者をつなぐ活動の推進

社協支部は、孤立を防ぐためのたまり場として、区会・町内会・自治会でのサロン活動の取り組みを促進してきました。しかし、障害者やその親、介護者や子育て世帯等では、情報や生活体験を共有できる場が不足しており、より孤立を深める傾向にあります。また、世代間交流の場が少なくなっていることから、サロン活動でこうした場づくりも求められています。そこで、社協支部では、従来のサロン活動に以下の視点と方法をもって、多様な形態のサロンや集える場づくりに取り組みます。

### ○サロン活動の推進

サロン活動は、障害や高齢、子育てなどが理由で孤立しがちな当事者同士が集まり、交流を深めることで、お互いの生活のしづらさを共有できる場として、また、当事者ならではの活動や情報発信を通じて、平時から災害に強い取り組みと、社会参加を高める役割を担う場として、以下の枠組みで活動を行います。

- ①社協支部は、区会・町内会・自治会と連携し、機関紙等を通じてサロンの開催や報告に関する「住民への広報」を行います。
- ②民生委員・児童委員や関係機関の協力を得ながら、サロンに参加してもらいたい人への呼びかけを行います。また、参加を促す際には、開催のチラシを手渡ししながら、本人の安否確認や関係づくりを意識して行います。
- ③サロンに参加した人が、支援を受ける側だけでなく、自らの役割を持ち、担い手としても活動できるような環境づくりやサロン運営の必要性を啓発していきます。
- ④社協支部は、サロン活動を実施している区会・町内会・自治会同士が情報交換できる場づくりを行います。

**達成目標** すべての区会・町内会・自治会でのサロン活動や、つながりを意識した場づくりを促進します。また、サロン活動は介護予防の機能も持ち、月に複数回程度の運営を目標とします



### 社会福祉協議会の取り組み

- 1) 高齢・障害・子育て・世代間交流などのサロンや集いの立ち上げ、運営に関する相談支援
- 2) サロンの運営講座及び情報交換会の開催による支援
- 3) 福祉講座による支え合い意識の啓発及び人材確保



### 市の連携事項

- 1) サロン活動に関する先進的な活動事例などの情報提供
- 2) サロン運営に必要な専門職員の派遣などによる運営支援